

2020.12 / Vol. 46 / Soccer Journal フォルトゥナ・デュッセルドルフ公式マガジン



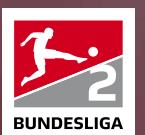
# フォルトゥナ通信

INA AKTUELL - Japanese Version

125 JAHRE  
1895 - 2020

# プロ デビュー

Profi-Debüt





STRATEGIEPARTNER



青を灯せ



[www.toyo.de](http://www.toyo.de)



**TOYO  
TIRES**

# フォルトウナファンの皆様へ

## Liebe Freunde von Fortuna Düsseldorf



フォルトウナ・デュッセルドルフ  
サッカーの発展、広告、CSR役員、クラウス・アロフス

Klaus Allofs  
Fortuna Düsseldorf Vorstand  
Fußball & Entwicklung, Kommunikation und CSR

今回、こうして日本人の皆様にご挨拶できることを大変光栄に思います。日本人住民との接点が多い街であるデュッセルドルフ出身の私にとっては、皆様がこの美しい街に第二の故郷を見つけられたことを心から嬉しく思っております。

私にとってホームクラブへの復帰は特別なものです。これまで選手として、また監督として、そして1人のファンとして、昔から非常に親身な関係にあったフォルトウナに、今はクラブ首脳陣の一員として責任を担う立場に就任できたことは本当に嬉しい限りです。私は、このクラブの将来を切り開くことに貢献したいという思いが強く、野心を持ってクラブの発展に取り組んで行く上で、まずは現実的な目標を達成するために自分の役割をしっかりと果たしたいと考えています。役員に就任してから最初の数週間は多くの話し合いやミーティングを行い、非常に内容の濃い時間となりましたが、クラブスタッフや選手たち、また周りのサポートのおかげでクラブの構成や流れ、管轄や様々なプロジェクトの内容などを知ることができました。残念ながらコロナパンデミックの影響により、現在の状況では個人的に皆様の前で自己紹介をすることができませんが、状況が緩和した際には是非、直接ご挨拶させていただきたいと思っています。

私はこの場をお借りし、長年フォルトウナをサポートしてくださっている皆様への感謝を込めて「ありがとう」を伝えたいと思います。我々は、これだけ多くの日本人の方々がフォルトウナのファンになってくれたことを非常に嬉しく思っていますし、また1人でも多くの日本人ファンの皆様をアリーナにお迎えできる日を楽しみにしています。これからも応援よろしくお願い致します。



## Impressum

>>フォルトウナ通信<<  
Flinger Broich 87  
40235 Düsseldorf

**Herausgeber 発行元:**  
Fortuna Düsseldorf 1895 e.V.

**Leitung 情報管理:**  
Kai Niemann (medien@f95.de)

**Redaktion 編集:**  
Taiki Hirooka 廣岡太貴  
Hayato Yakumaru 薬丸隼人  
(japandesk@f95.de)

**Fotos 写真:**  
Christof Wolff, F95,  
Janik Osthoever

**Layout レイアウト:**  
Hayato Yakumaru 薬丸隼人  
Christian Lewandowski

**Druck 印刷:**  
Clasen GmbH

# 更なる新加入

## WEITERE NEUZUGÄNGE VERSTÄRKEN DIE FORTUNA



**5 | DF**  
**クリストフ・クララー**

オーストリアU21代表のセンターバックは、2016年にイングランドのFCサウサンプトンへ移籍を果たして以来、U18とU23のプレミアリーグでプレーを続けてきた。昨シーズンの後期、オーストリア1部リーグのクラブであるSKNザンクト・ペルテンへ移籍を果たすと、不動のセンターバックとして活躍していた。なお、クララーは2024年6月30日までの長期契約を結んでいる。



**30 | GK**  
**アントン・ミトリュシキン**

ロシアの伝統クラブであるスパルタク・モスクワのアカデミーで成長を遂げたゴールキーパーは、この間に母国であるロシアの年代別代表選手にも選ばれていた。その後、2016年にスイス1部リーグのFCシオンに移籍し、スーパーリーグで66試合に出場しているだけでなく、スイス杯に8試合、ヨーロッパリーグ予選には2試合に出場した経験を持つ。



**22 | DF**  
**レオナルド・クトリス**

2017年にギリシャのトップクラブであるオリンピアコスFCに移籍し、チャンピオンズリーグ予選に5回、チャンピオンズリーグ本戦に5回、近年ではヨーロッパリーグには3回出場した経験を持つ左サイドバックだ。昨シーズンの後期、スペイン1部リーグのRCDマジョルカにレンタル移籍となっていたものの、2試合に出場した後、膝の大怪我によりシーズンを終えていた。現在も復帰へ向けた準備を進めている。



**32 | DF**  
**ルカ・クラインツ**

スロベニア人のセンターバックは、16歳でイタリアのセリエAクラブであるFCジェノヴァに移籍して以来イタリア国内でプレーを続け、セリエAで34試合、セリエBでは104試合に出場した経験を持つ。その間にセリエA昇格をかけたプレーオフ14試合に出場し、2015/16シーズンにはキャリア・カルチョでセリエB優勝も成し遂げている。また、スロベニア代表の選手としても3試合に出場している。



**12 | FW**  
**クリストファー・ペーターソン**

攻撃的なポジションを全てこなせるマルチプレイヤー。FCリバプールのアカデミーで成長を遂げたアタッカーは、イングランドやオランダでプレーした経験を持つ。ペーターソンはエールディヴィジ(オランダトップリーグ)で、ヘラクレス・アルメロ、FCユトレヒト、ローダ・ケルカラールにて合計130試合に出場し、28ゴールを記録していた。彼の特徴である1対1のドリブル突破に注目してほしい。

## シーズン開幕戦

2020/21シーズンの開幕戦となったハンブルガーSVとの一戦は、いきなりのビッグゲームとして大きな注目を集めた。試合は立ち上がりから両者激しい攻防を繰り広げる展開に。それでもお互いに決定機を迎えられずにいた前半終了間際、フォルトゥナは不運な形でハンブルグにPKを与えてしまう。そしてこれを相手ストライカーのテロデに決められ1点ビハインドでハーフタイムへ。後半、1点を追いかけるフォルトゥナは前線から積極的にプレッシャーをかけていく。しかし、中盤でボールを奪われると、ハンブルグの速いショートカウンターから追加点を奪われリードを広げられてしまう。なんとしてもまず1点が欲しいフォルトゥナは再び猛攻を仕掛けるも、ハンブルグの堅い守備の前になかなかチャンスを作り出せない。それでも試合終了間際の後半ロスタイム、ツイーママンのゴールで反撃の狼煙を上げるも時すでに遅し。試合はこのまま1-2でタイムアップを迎え、フォルトゥナのブンデスリーガ2部での2020/21シーズンは惜しくも黒星スタートとなった。



-



2-1



1-0



-



## ホームで初勝利

今シーズン第2節、ホーム開幕戦となった試合は最後まで手に汗握る一戦となる。試合は前半からフォルトゥナがゲームを支配するも、アタッキングゾーンでのラストパスやセンタリングに精度を欠き、大きなチャンスを作り出せない時間帯が続く。後半に入っても試合の主導権を握るフォルトゥナは、この試合で初先発となったオフォリが積極的に仕掛け、何度も相手ゴールに襲いかかるも得点に繋げることができない。そんな中、後半62分にアペルカンプ真大が投入され、ブンデスリーガデビューを果たすと、さらにチームに勢いをもたらす。すると後半82分、左サイドからのグラウンダーのクロスを最後はコフナツキが押し込み、ついに先制に成功。そして、このまま試合終了かと思われた後半ロスタイム、ペナルティエリア内でファウルを取られ、PKを献上してしまふ。しかし、これをフォルトゥナの守護神カステンマイヤーがスーパーセーブで阻止し、土壇場で1点を守り切ったフォルトゥナが今シーズン初勝利を取めた。選手たちは試合後、この日スタジアムに集まった7,500人の観客と共に今季初の勝ち点3を祝った。

## ドイツ最北端での対戦

アペルカンプが初先発に名を連ねたホルシュタイン・キールとのアウェー戦は、試合開始から12分でツィーマンが太腿を負傷し、ルスラー監督は早々に選手交代を余儀なくされてしまう。するとその数分後、右サイドからのセンタリングがハートヘアツに当たり、不運な形のオウンゴールで先制点を奪われる展開に。その後、なかなかチャンスを作り出せないフォルトウナに対し、ゲームの主導権を握るキールが猛攻を仕掛けるも、GKカステンマイヤーが立ちはだかり追加点を許さない。一方、後半に入りギアを上げたフォルトウナは59分、右サイドを突破したプレデルのセンタリングが今度は相手のオウンゴールを誘い、試合を振り出しに戻す。そして迎えた試合終了間際の86分、ツィマーがペナルティエリア内でハンドを取られキールにPKを献上すると、これを決められ土壇場で再びリードを奪われてしまう。さらに、このPK判定に抗議したダンソが2枚目のイエローカードを受け退場処分。これで数的不利となってしまったフォルトウナは、その後も最後までゴールを狙い続けたもののチャンスを作り出すことができず、キール1点リードのままタイムアップ。不運な形で2失点を喫したフォルトウナにとっては非常に苦い敗戦となった。

2-1



## ホーム第2戦は再び無観客

デュッセルドルフの新型コロナウイルス感染者指数が上昇したことにより、再び無観客で開催となったホーム戦は、フォルトウナにとって悪夢のようなスタートとなる。試合開始24秒、右サイドからのクロスボールを相手FWに頭で合わせられ先制点を奪われると、続く20分にはロングボールから裏に抜け出され追加点を許し、リードを2点に広げられてしまう。早い段階で2点を追いかける展開となったフォルトウナは、攻撃のギアを上げて反撃に出る。すると、後半から途中出場となったペーターソンの絶妙なセンタリングから、プレデルがこの試合最大のチャンスを迎えるも、相手ゴールネットを揺らすまでに至らない。それでもフォルトウナは、試合終了まで残り10分となったところから怒涛の追い上げを見せる。中盤でボールを受けたカラマンが1人で相手のディフェンスラインを突破すると、最後は正確にゴール右下へ流し込み反撃の狼煙を上げる。するとその僅か5分後、右サイドでボールを奪ったツィマーがボツェックに繋ぐと、パスを受けたキャプテンのピンポイントクロスにヘニングスが頭で合わせ同点に。また、試合終了間際にはレーゲンスブルグが2度のビッグチャンスを迎えるなど、試合終盤に激しい攻防を繰り広げた両チームの戦いは、決着が着かないまま試合終了を迎え、勝ち点1点を分け合う結果となった。

2-2





-



3-0

## 日本人対決は相手に軍配

この試合はアペルカンプvs原口元気と室谷成の日本人対決となった。この一戦に今季初の3バックで挑んだルスラー監督だが、試合は序盤から相手にゲームの主導権を握られる展開に。ハノーファーは、元フォルトウナの選手である原口とドゥクシュの2人が躍動するも、安定した守備を見せるフォルトウナが前半を0失点に抑えハーフタイムへ。すると後半開始7分、フォルトウナは思い掛けない事態に見舞われる。負傷したハートヘアツに代わって投入されたツイマーマンが、僅か7分間で2枚のイエローカードを受け退場処分に。これで数的不利の状況となったチームは、ついに猛攻を仕掛けるハノーファーに先制点を奪われてしまう。さらにその数分後には、ダンソがペナルティエリア内で原口を倒してしまいPKを献上すると、これを決められ0-2。数的不利の上、2点ビハインドと更に厳しい状況を強いられたフォルトウナは、果敢に戦う姿勢を見せるもなかなかシュートまで繋げることができない。そして試合終了5分前には、ボレロのバックパスをGKカステンマイヤーのコントロールミスによるオウンゴールで追加点を許し0-3に。こうして日本人対決ともなったこの一戦は、終始試合の主導権を握ったハノーファーに軍配が上がった。



-



1-0

## ホームで勝ち点3を獲得

負傷者や累積などで多くの選手を欠いたルスラー監督率いるチームは、ソボトウカが本来のポジションではない左サイドバックで出場するなど、多数のポジションチェンジを余儀なくされる。それでもこの試合で、素晴らしい立ち上がりを見せたフォルトウナがゲームの主導権を握ると、プレデルのフリーキックの跳ね返りに反応したゾボトウカが、相手との競り合いを制し、右足で放ったスーパーボレーをゴールネットに突き刺して、先制に成功。しかし後半開始直後、反撃に出るハイデンハイムの猛攻を受けるフォルトウナが、この試合最大のピンチを迎える。右サイドを突破されゴール前にラストパスを送られると、フリーの相手選手にボールが渡るも、このシュートはしっかりとミートせずピンチを逃れる。その後もハイデンハイムがチャンスを迎えるものの、カステンマイヤーが立ちはだかりゴールを許さない。また、中盤ではピオトロフスキが豊富な運動量を見せ躍動しただけでなく、この日センターバックとして先発出場したオーストリアU21代表の2人であるダンソとクララーが、気迫のあるディフェンスで相手の攻撃をシャットアウト。こうして前節より格段に良いパフォーマンスを見せ、最後まで身体を張り1点を守り切ったフォルトウナが、非常に重要な勝ち点3を獲得した。

## アウェーで初の勝ち点獲得

第7節のニュルンベルク戦には、右サイドバックのツィーマンが累積出場停止から復帰し再び先発に名を連ね、前節に素晴らしい活躍を見せたゾボトウカはそのまますサイドバックで起用された。この試合、非常に良い立ち上がりを見せたフォルトゥナだが、前半15分に思い掛けない“不運”に見舞われる。自陣のペナルティーエリア内で相手FWと競り合ったクララーの手にボールが当たったとして、議論を呼んだビデオ審議の結果、PK判定が下ると、これを決められ先制点を奪われてしまう。それでもその15分後、左サイドを抜け出したペーターソンが中央にボールを送ると、カラマンが華麗な反転から相手GKの逆をつくシュートでゴールネットを揺らし、試合を振り出しに戻す。後半に入るとニュルンベルグが攻撃へ圧力をかけるも、ルスラー監督率いるチームは堅実な守備を続け、相手をほとんど自陣ゴールへ寄せ付けない。一方、フォルトゥナも幾つかのチャンスを作り出すものの、ラストパスや最後のセンタリングの精度を欠き追加点を上げることができなかった。こうして試合は1-1のままタイムアップを迎え、勝ち点3こそ奪えなかったものの、フォルトゥナは今季アウェーで初の勝ち点を獲得することに成功した。

1-1



## ホームゲームで2連勝

代表ウィークによる2週間のリーグ中断期間に、チームを離脱していた数人の選手たちが復帰したことで、ルスラー監督はより多くのオプションを持ってこの一戦に臨んだ。試合は序盤からブンデスリーガ2部を象徴するような激しい展開となる中、この試合に両サイドハーフとして先発出場したオフォリとペーターソンが積極的に仕掛けていく。しかし、前半は両チーム共にファールが多く、正確性を欠いたプレーが目立ち、大きな見せ場がないままハーフタイムへ。後半に入り勢いづいたフォルトゥナは、途中交代で投入されたカラマンとプレデルが良い流れを作り出すと、その数分後にはプレデルのフリーキックからゴール前の混戦でダンソが倒されPKを獲得。これをヘニングスがしっかり決めてフォルトゥナが先制点を獲得する。更にその直後には、怪我から復帰したプリブがフォルトゥナでのリーグ戦デビューを果たし、チームに勢いをもたらす。一方、反撃に出るザンドハウゼンが後半83分にこの試合最大のチャンスを迎えるも、アペルカンブが懸命なブロックを見せ得点を許さない。そして、最後まで素晴らしいパフォーマンスを見せた守備陣が今回のホーム戦も再び無失点に抑え、フォルトゥナが今季ホーム3勝目を掴み取った。

1-0







## 西ドイツ因縁対決で大敗

隣街クラブとのダービー戦に再び3バックで挑んだルスラー監督だが、試合開始直後の3分、ペーターソンがゴール前の横パスに走り込んだ相手FWをペナルティエリア内で倒してしまうと、VARにより主審はPKと判定を下し、さらにレッドカードを提示。このPKを決められリードを許したフォルトウナは、さらに数的不利になったことで、ダンソを左サイドバックのポジションへ配置して4バックに変更。前半は0-1で折り返したものの、ゲームの主導権は依然として数的有利のボーフムが握る展開に。すると58分、コーナーキックから追加点を奪われ0-2とされる。その後もピンチを迎えるも、GKカステンマイヤーが顔面セーブやペナルティエリアを飛び出しディフェンスラインのカバーリングを見せるなど、身体を張りゴール前に立ちはだかる。しかし、選手交代で流れを変えられないルスラー監督率いるチームは、その後さらに3失点を喫し、最終的には0-5という結果でタイムアップ。試合序盤に退場者を出したことで、ほぼフルゲームを数的不利での戦いを強いられたフォルトウナが、最終的に1人多いボーフムの前になす術なく大敗を喫した。



-  **5-0**



## 劇的な逆転勝利

試合序盤、上手くゲームの流れを掴めないフォルトウナに対し、ダームシュタットが立て続けにビッグチャンスを迎えるも、守護神カステンマイヤーの好セーブやポストにも救われ、なんとかピンチを逃れる。それでもなかなか流れを掴めないチームに対し、ルスラー監督は3バックから4バックにシステムを変更。すると徐々にフォルトウナが流れを掴み始める。後半の立ち上がり、相手のエースストライカーであるドルズンに先制点を奪われてしまうも、この失点で目覚めたフォルトウナは、アペルカンプ真大が絶妙なインターセプトからドリブルで駆け上がり、絶好の位置でフリーキックを獲得。そしてこのフリーキックをヘンギンスが得意の左足で沈め、試合を振り出しに戻す。しかし、途中交代で入ったオフォリが自陣のペナルティエリアで相手選手を倒してしまいPKを献上すると、これを決めら再びリードを許してしまう。それでも諦めないフォルトウナは、ツィーマンのクロスボールに反応したカラマンが技ありヘディングシュートで再び同点に追いついて見せる。その後も一進一退の攻防が続く中で迎えた試合終了間際、途中交代でピッチに入ったコフナツキがこぼれ球を冷静にサイドネットに沈め、ラストミニッツゴールで勝ち越しに成功。こうして最後の最後で劇的な逆転勝利を収めたフォルトウナが3連勝を飾った。



-  **3-2**





125 JAHRE  
1895 - 2020



# 選手インタビュー

## ヤコブ・ピオトロフスキ

今シーズンからフォルトウナに新加入し、今季10節を終えた時点で好調をキープしているポーランド人のヤコブ・ピオトロフスキ。今回はそんな23歳のMFから、フォルトウナへ移籍を決めた理由や現在のチーム状況、また日本人選手との接点などについて興味深い話を聞くことができた。

**フォルトウナに移籍を決めた大きな要因は？**

まずはこのクラブが自分のプレースタイルに合っていると思いましたし、何よりもブンデスリーガでプレーすることが小さい頃からの夢だったんです。だからこそドイツに移籍するチャンスをもたらした時、決断するにあたり迷うことはありませんでした。また、クラブの首脳陣が私を獲得するのに尽力してくれたことも大きな理由の一つです。全てが上手く進み、今こうしてフォルトウナ・デュッセルドルフのために戦えることを非常に嬉しく思っています。

**フォルトウナと4年間の長期契約を結んだ理由は何かな？**

契約内容が決め手でした。フォルトウナ・デュッセルドルフはスポーツと運営の両方の分野においてプロフェッショナルで、私の更なる成長のために非常に良い条件を提示してくれました。それに加え、街の人々やクラブスタッフもとても気さくで親切です。この4年間という時間の中で自分を一步一步成長させたいと思います。これは継続性と信頼性があってのみ可能となりますが、デュッセルドルフでの生活は快適なので、これからの数年間を楽しみます。

**デュッセルドルフの街にはどんな印象を持っている？**

本当に素晴らしい街ですし、私はここでの時間を満喫しています。もちろん現状では難しいですが、そんな中でもデュッセルドルフは色んなことができる大きな街です。例えば、私は散歩に行くのも好きですし、自転車に乗るのも好きなので、必要なものは全てここにあります。

**ブンデスリーガでプレーするのは初めてだけど、これまでプレーしてきたポーランドやベルギーとのサッカーの違いは？**

ベルギーのサッカーはもっと攻撃的で、より早くゴールへ向かう戦術を好んで起用します。その結果、守備への切り替えが疎かになってしまうこともあります。それに、ベルギーリーグでは1対1のデュエルが増えている傾向もあります。一方、ドイツのサッカーは組織化されていて、ボールの支配を好む為、安定したコンパクトな守備が重要となります。それに比べ、ポーランドのチームはフィジカル面では長けていますが、戦術的な要素をあまり重視しておらず、中盤にスペースがあることが多いです。

**今シーズンここまで戦ってきて、今現在のチームの状況はどう？**

全く新しいチームになったので、我々はさらに成長するために日々努力を続けています。だからこそ、一歩ずつステップアップしていく必要があります。チームにはまだまだ秘めた可能性があると思うので、これから多くの勝ち点を獲得できると思います。我々はフォルトウナ・デュッセルドルフとして、全試合に勝つ気持ちを持たなければなりません。

**個人的な目標を教えてください？**

スターティングメンバーとして定着し、チームの力になれるように戦いたいです。常に全力を尽くす準備はできているので、毎日練習を行い、最高のパフォーマンスを発揮できるようにしています。特に個人的な目標はありませんが、チームで成功を取って少しでも多くの試合に勝利したいと思っています。

**サッカー人生での大きな目標は？**

私は子供の頃からプレミアリーグやブンデスリーガでプレーするのが夢でし

た。子供の頃はチェルシーFCのファンでしたが、ボルシア・ドルトムントやバイエルン・ミュンヘンなどのクラブにもロベルト・レヴァンドフスキが所属していたので、いつもチェックしていました。だからこそ私は、ブンデスリーガに昇格するために尽力しています。もしかすると、この後プレミアリーグのチェルシーでプレーする機会があるかもしれませんね。

**これまで日本人選手とプレーした経験はある？日本人選手の印象は？**

もちろんです。ベルギーではゲンクで伊藤淳也と、ワースラント・ベフェレンでは小林祐希と共にプレーしましたし、ポーランドでは赤星貴文とプレーしました。もちろん今フォルトウナにはアペルカンブ真大がいます。皆とても親切で、これまで非常に良い関係を築いてきたこともあり、私は日本人選手が大好きです。シントアを見てわかりますが、彼らは非常に優れた技術を持っていますね。

**デュッセルドルフの日本コミュニティを知ってる？日本食は好き？**

私は日本人学校のすぐ近くに住んでいるので、ほぼ毎日のように日本人とのコンタクトがありますよ。また、私はお寿司が大好きです。日本で食べると格段に美味しいと思いますが、ドイツのお寿司も美味しくていただいています。

**最後に日本人のフォルトウナファンに一言。**

我々はチームとして日本人ファンの方々が応援してくれることをいつも嬉しく思っています。私はこの場を借りて、チームをサポートしてくれる皆さんの忠誠心と情熱に感謝の気持ちを伝えたいと思います。また、我々は更に多くのファンの方々にスタジアムへ足を運んで頂き、皆さんと一緒に数多くの勝利を祝えることを願っています。



## PROFI-DEBÜT VON SHINTA APPELKAMP アペルカンプ真大 プロデビュー

今シーズン、プロデビューを果たしたアペルカンプは現在10試合を終え、怪我で戦線離脱を余儀なくされた2試合を除いて、全試合で出場を果たしている。「プレシーズンで良いパフォーマンスを見せられていて、ドイツ杯も先発出場する予定でしたので、その前に怪我をしてしまい、出場機会を逃してしまったことはとても悔しかったです。それでもすぐに復帰できるようにリハビリを行い、ヴェルツブルグ戦でプロデビューを果たすことが出来ました」と述べたように途中出場でプロデビューを果たすと、攻守に渡り存在感を見せ、アペルカンプが起点となりフォルトウナが先制に成功したが、それは偶然ではなかった。「ベンチから試合を見ている中で中盤にスペースがあった事は把握していたので、久しぶりに観客が入ったホームゲームで自分が起点となった得点で、試合に勝利できたことは嬉しく思います」と述べるように、今シーズンで観客動員をして開催された唯一の試合で脚光を浴びることとなった。しかし、途中出場デビューを果たしたアペルカンプは、後半ロスタイムに再び途中交代でピッチ後にした事について「ドイツではサッカー選手にとって最悪の罰とも言われますが、監督からも戦術的な交代だったことは説明されていますし、チームが勝つことが一番大事です」と謙虚な姿勢を見せる。

その後もフォルトウナの勝ち点獲得に貢献しており、それを象徴したのがホームで行われたSVザントハウゼンとの一戦だ。試合終盤に同点弾を狙い、怒涛の攻撃を仕掛ける相手チームの前に立ち上がったのがアペルカンプ真大である。トップ下で出場した20歳のゲームメーカーは、幾度となく身体を張ったディフェンスを見せた。その結果、1点を守り切り、ホーム3勝目を勝ち取る事に成功した。

監督が信頼を寄せる若きMFアペルカンプ真大はフォルトウナの中心選手として活躍し、フォルトウナを1部に導いてくれることだろう。



» **新しいアカデミーセンターが  
完成したことにより  
基盤が固まったので  
より多くの育成選手を  
フォルトゥナから排出することが  
出来ると思います**«



# SHINTA's EYE

## 「故郷の味」

### 材料

#### 具材

- ・ 鶏モモ肉
- ・ 玉ねぎ
- ・ 青ネギ
- ・ 卵
- ・ 米

#### タレ

- ・ 醤油 …… 大さじ3
- ・ みりん …… 大さじ2
- ・ 砂糖 …… 小さじ2
- ・ 水 …… 適量

20歳を迎えたアペルクンプは、親元を離れ一人暮らしを始めている。家事を全て自身で行う日本生まれの彼が最近始めたのは料理だ。栄養バランスの取れた食事を取ることがパフォーマンスを向上する上で重要であることは言うまでもない。そんな彼のお気に入り料理は"親子丼"である。日本人の母を持つアペルクンプは、故郷である日本の料理を母親から学び、自宅でも母の味を口にしてエネルギーを蓄えている。

サッカーの試合における走行距離の1試合平均が10kmと言われる中で、約13kmを走る彼の食生活やブンデスリーガで戦う為の極意を今後色々紹介してくれるかもしれない。



# ブンデスリーガの枠をかけて

## DER BUNDESLIGA – AUFSTIEG IST DAS ZIEL



2019年9月27日に行われたドイツサッカー協会の連邦会議で、2020/21シーズンからフットサル・ブンデスリーガの設立が決定したことを受け、フォルトウナ・フットサルチームの目標は明確となった。それはもちろん、ブンデスリーガに参戦できる一枠を勝ち取ることである。そのブンデスリーガに上がるためには、現在所属しているリーグのレギオナルリーガ・ウェストで2位以上になる必要がある。そんなフォルトウナ・フットサルチームは、9月19日に迎えた今シーズン開幕戦でポストSVデュッセルドルフに5-4で勝利を収め、スタートダッシュに成功すると、続くFSPターボ・ミンデンに5-4、更にヴッパタールSVには3-2、そしてフットサル・パンサーズ・ケルンにも5-4で勝利し、現在4連勝で首位を走っている。しかし、好スタートを切った矢先、今年は何かと世間

を騒がしているコロナパンデミックの影響により、リーグ中断を余儀なくされた。

そんな中、シャヒン・ラシ監督は「今シーズンは開幕から4戦4勝と好調なスタートを切ったので、その点では満足していますが、シーズンは長いですし、まだまだやるべきことはたくさんあります」とコメントしている。そして、この4連勝に貢献したのが鈴木歩夢だ。ラシ監督は、これまで全試合に出場している日本人選手に対して「彼は俊敏かつアグレッシブで、フットサルに必要な技術とクオリティを持っています。最初の頃は、語学の面でコミュニケーションが上手く取れず、ドイツのスタイルに慣れていないこともありましたが、今ではチームに欠かせない存在に成長しています」と彼への大きな信頼を示した。

## 鈴木歩夢

すずきあゆむ



今ではチームに欠かせない存在となった鈴木歩夢。日本では神奈川県の人チームで仕事とフットサルの2足の草鞋を履いて生活していた。そんな27歳のディフェンダーは、高校時代の戦友がコーチを務めるチームの代表者のコンタクトを通じて渡独のチャンスを得ると、ブンデスリーガの設立を耳にしていたドイツへ移住を決断。

そしてデュッセルドルフに舞い降りたチャレンジャーは練習参加の末、フォルトウナへの加入を掴み取る。しかし、待ち受けていた現実はやさかなものではなかった。ブンデスリーガ昇格を掛けて戦うフォルトウナは、現在レギオナルリーガ・ウェストに所属しており、生活費を確保するためにバイトを余儀なくされただけでなく、新たな環境に身を置くことにな

順位表		
	試合	勝ち点
1. Fortuna Düsseldorf	4	12
2. MCH Futsal Club Bielefeld	4	12
3. FSP Turbo Minden	6	12
4. Wuppertaler SV	4	9
5. Cherusker Detmold	5	9
6. Futsal Panthers Köln	3	6
7. Bonner SC Futsal Lions	6	6
8. Club de Futsal Mülheim	6	4
9. Holzposten Schwerte	3	3
10. Post SV Düsseldorf	4	3
11. Black Panthers Bielefeld	3	3
12. UFC Münster	3	1
13. Königsborner SV Unna	3	0

った彼には言語の取得という試練が待ち受けていた。それでも彼は「このチームでブンデスリーガに上がり、その舞台で活躍したいです」と意気込むように、自らの決断に後悔はない。それどころか、日本とは戦術も違うドイツのフットサルを経験する中で「体格も戦術も大きく違う国で、チームの1ピースになれるように試行錯誤した結果、身体が小さいことをプレーに活かせるようになりました」と自身の成長を口にした。

イタリア、スペイン、ブラジルといった強豪国を選ばず、まだ開拓されていない国へ飛び込むことに魅力を感じた彼が、日本人史上初のフットサル・ブンデスリーガ選手になる日はすぐそこまで来ている。



## 日本人学校でフォルトウナ授業

2008年からデュッセルドルフ日本人学校2年生の学年行事ともなっているアリーナ見学。今年はコロナパンデミックの影響を受け、残念ながら11月中旬に予定していたアリーナ見学は延期を余儀なくされたものの、2010年から同学校で毎年行われている事前授業である“フォルトウナ授業”は、マスク着用やソーシャルディスタンスを保つなど、衛生面の規制を厳守した上で実施することが可能となった。この授業は、フォルトウナについてより多くの知識を得てもらうため、クイズ形式を交えた約1時間に渡る授業を用意し、元気いっぱいの子供たちと質疑応答を行いながら、楽しくフォルトウナを学ぶことを目的としている。

ちなみに、この授業の最後には二つの宿題が出された。一つはフォルトウナの代表的な応援歌(ドイツ語)である“Die Fortuna ist mein Verein”を自宅で覚えること。もう一つは、用意された似顔絵用紙に記載されているフォルトウナのプロ選手たちの写真を見ながら、その隣に彼らの似顔絵を描いてもらうというものだ。そして後日、この似顔絵は選手たちの下へ届けられ、選手たちやクラブスタッフからも大好評となった似顔絵用紙は、それぞれの選手たちから直々にサインをもらった後、子供たちへプレゼントされることとなる。

このアクションは、デュッセルドルフ日本人学校の子供たちに、自分たちの街クラブであるフォルトウナを少しでも近くに感じてもらうために始めた行事の一つとなっている。

# 子供たちもフォルトウナを応援

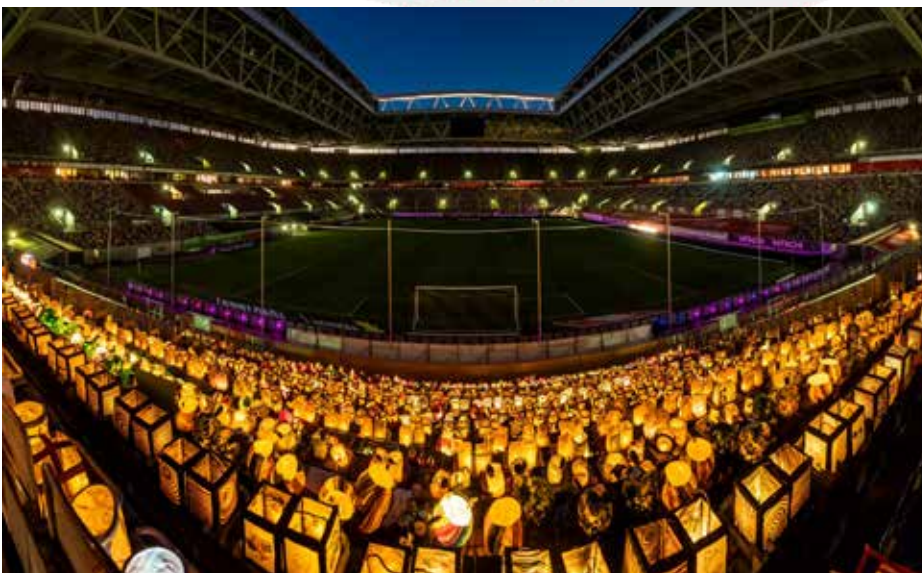
## KLEINE FORTUNEN UNTERSTÜTZEN FORTUNA



## 暖かな光がアリーナを灯す

ドイツの秋の伝統行事であるザンクト・マーティン。子供たちが提灯を持ってお店や家々を訪ね歩き、1曲歌うとお菓子などをもらえるという、ハロウィンのようなイベントとなっている。日本ではあまり知名度の高くないイベントだが、ドイツでは一年の中で非常に重要なイベントの一つだ。しかし、コロナウイルス感染拡大の影響により、子供たちはこのイベントを例年通りに楽しむことができなかった。そこでフォルトウナは、子供たちが手作りした提灯でアリーナに光を灯し、ホームゲームで選手を応援しようという企画を持ち出した。

フォルトウナのキッズクラブやユースアカデミーセンターの選手たち、そして60の小学校や保育園の子供たちが手作りした約2000張にも及ぶ提灯は、すでに試合前日の金曜日の夜に光が灯され、暗く誰もいないアリーナに印象的な空間を作り出した。なお、土曜日に行われたSVザンドハウゼン戦では、メルキュア・シュピール・アリーナの南スタンドに配置され、無観客で開催となったこの一戦でも子供たちが提灯を通じて選手にエールを送ったことで、フォルトウナはホームで見事1-0と勝利を収めることに成功した。





# FROHE WEIHNACHTEN

## フォルトウナから クリスマスプレゼント

### 〈応募方法〉

1. フォルトウナ日本語版・公式ツイッターアカウント「@F95\_jp」をフォロー
2. 12月14日(月)-12月23日(水)までの期間に、クリスマスキャンペーン投稿に「いいね！」
3. 「いいね！」をしてくれた方の中から抽選で1名様に、アペルカンプ真大のサイン入りユニフォームをプレゼント

※既にフォローいただいている方でもクリスマスキャンペーン投稿に「いいね！」で抽選に参加できる。

※期間は12月23日(水)の18:00まで。

### 〈当選発表〉

日本デスクによる厳選な選考の上、12月24日(木)に当選者の方のみにツイッターのダイレクトメッセージにて報告が入る。

※ 当選した方へのプレゼントは郵送で送られるため、届くまでに時間が掛かる可能性がある。



# 海外企業でのインターンシップを通じて将来の可能性を広げる 中央大学商学部「グローバルキャリア」

商学部「インターンシップ科目」



中央大学商学部では、グローバル社会における海外での働き方を学ぶこと、英語を母語としない相手に対する英語でのコミュニケーションスキルを学ぶことを目的として、グローバルキャリア科目を開講しています。行き先は、タイ、中国、ベトナム、インド、モンゴルの5コース。就業体験にとどまらず、各コースに魅力的な特長があり、将来、グローバル社会を舞台に活躍したい学生には、絶好の機会となっています。

## コースごとの特色

※新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け 2020 年度は閉講いたしました。2021 年度は開講を予定しています。



タイ

本学部と提携を結びバンヤピワット経営大学(PIM)の経営母体である CPALL 株式会社(タイでセブンイレブンを経営する流通最大手の企業)および関連企業における実習型のインターンシップです。PIM から本学へもインターンシップ生を受け入れ、双方向型で実施しています。



中国

シンボー情報システム株式会社の横浜本社と、中国(延吉)支社での実習の両方を体験します。同じ企業の異なる国での実習を通し、国による働き方、文化の違いを体験するハイブリット型のインターンシップとなっています。



モンゴル

現地大手企業(銀行、リース会社、新聞社、通信会社)での実習を体験するビジネスコースと、現地の高等学校やモンゴル日本センターで日本語教育の補助をする学生アンバサダーコースの2コースを用意しています。



ベトナム

現地の日系企業が実際に直面する課題について、現地でのフィールドワークを通して解決策を提案する問題解決型のインターンシップです。さらに、人材派遣会社での実習、キャリアフォーラムへの参加を通して、「海外で働くこと」を考える機会を提供しています。



インド

現地の日系企業から提供されるビジネス・マーケティング課題に取り組み問題解決型のインターンシップです。現地人への飛び込み営業を通じてビジネススキルを学ぶ機会も用意しています。



現地学生との交流や企業へのプレゼンテーション等の機会が用意されています。

## 履修者の声

海外で働くイメージを具体的にすることができました。  
(2019 年度タイコース参加・2 年生)

現地での経験は、就職活動にも活かされています。  
(2019 年度中国コース参加・3 年生)

言葉とともに文化を知る重要性を実感しました。  
(2019 年度ベトナムコース参加・2 年生)

英語圏、ドイツ語圏、フランス語圏、スペイン語圏、中国語圏、韓国語圏への留学プログラムと奨学金制度も充実しています。

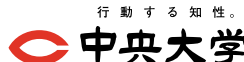
商学部「グローバル科目」



商学部の給付奨学金制度



中央大学商学部とフォルトゥナ・デュッセルドルフは日本初のカレッジ・パートナーシップを締結しました。



行動する知性。

お問い合わせ先：中央大学 商学部事務室  
<https://www.chuo-u.ac.jp/inquiry/form/?id=7>



Willkommen in der Welt der Farben, Papiere und Druckveredelung. Wir achten darauf, dass sich Funktion, Haptik, Ästhetik und Wirtschaftlichkeit optimal ergänzen. Ihr Design und unsere drucktechnische Kompetenz führen zu perfekten Ergebnissen.

Ob stanzen, prägen, laminieren, lackieren, einen Farbschnitt aufbringen, wir machen fast alles möglich. Wir drucken bis 70 x 100 cm im Offset oder digital mit modernster Technik.

Dicken Karton, Sonderfarben, Hybridprodukte. Mit Bemusterung vorab, mit Druckabnahme, mit dokumentierter Qualitätskontrolle. Auch über Nacht. Auch bis ans andere Ende der Welt. Unser Standort befindet sich 1 km vom Flughafen und der Messe Düsseldorf.

Wer bei uns drucken lässt? Natürlich die Fortuna, die DEG und weitere große Sportvereine. Bekannte Werbeagenturen fühlen sich bei uns wegen der hohen Termintreue wohl. Industriekunden schätzen unsere Beratung und Qualität. Die Stadt und der öffentliche Dienst mag unsere Preise.

Wir sind PSO- (ISO 12647) und FSC®-zertifiziert, drucken klimaneutral und alkoholreduziert (IPA) und erzeugen Strom per Fotovoltaik.

**Clasen GmbH**  
Spielberger Weg 66  
40474 Düsseldorf

**Fon 0211-447290-0**  
**Fax 0211-447290-60**  
**mail@druckerei-clasen**  
**www.druckerei-clasen.de**

